

解答

- ① 1 安易 2 河口 3 住居 4 招待 5 肥えた
 6 逆らえ 7 校則 8 保管 9 農耕 10 医師
- ② 問一 1 オ 2 ア 3 イ 4 ウ 5 エ
 問二 1 エ 2 イ 3 ア 4 オ 5 ウ
- ③ 問一 二十四字 読み返す～ができる〔本〕(くんで)
 二十八字 二度めに～くわかる〔本〕(くんで)
 問二 A ウ B イ C ア
 問三 ウ 問四 自分の心の養いになる
 問五 文学的な作品では、会話や自然を描いた一節に作者の気持ちがこめられていること。
 問六 エ
- ④ 問一 1 イ 2 陽が落ちて
 問二 エ 問三 A ウ B イ C エ
 問四 ウ 問五 イ
 問六 ア 問七 イ
 問八 お祖父ちゃん・お母さんたち (くんで不順可)

解説

- ③ 出典は、吉沢久子「94歳から10代のあなたへ伝えたい大切なこと」〈海竜社〉。
- 問一 「りっぱな文学作品といわれるようなものは、読み返すたび、何か新しいものを感じることができるものです」(21・22行め)とあります。またその後も「二度めに読んだら、前にはわからなかったことが、よくわかるという本は、たいてい、いい本です」(35・36行め)とあります。同じような表現は文章中にいくつもありますから、字数に合うものをさがしましょう。
- 問二 A…空らんの前「つまらないと思わせられるもの」の具体的な説明が続いているので、例示を表す「たとえば」が入ります。 B…空らんの前「その人なりに成長していくものだ」という理由で「前に読んだときはよくわからなかった本が、やがてわかるようになったり、～」と当然と考えられる結果が続いているので、順接の「だから」が入ります。 C…空らんの前「おもしろそうだなと思う本だけを読んでいるのでは、～自分のものにはできない」という内容に対して、「むずかしい本を読むことだけが、必ずしも、りっぱな本の読み方ではない」と続くので、逆接の「けれども」が入ります。
- 問三 「だれでも、いっしょうけんめいで生きている人は、たえず、その人なりに成長していくもの」であり、「だから、前に読んだときはよくわからなかった本が、やがてわかるようになったり、前には何とも感じなかったことも、次には感じられる力ができてくるのだと思うのです」と述べられています。
- 問四 二つ後の段落に、「私たちが本を読むのは、～自分の心の養いになるものをつかみ、また自分の考えていたことと比べてみて、～」(30～33行め)とあります。
- 問五 指示語の指す内容を問う問題です。直前の内容である「小説とか随筆集とか、その他文学的なものは、筋ばかりわかっても、ほんとうに、その内容をわかったとはいえません。ちょっとした会話とか、

自然をえがいた一節に、それを書いた人の気持ちがこめられていること」(37～39行め)があることをまとめます。

問六 ア…「どんな種類の本でも、自分が、おもしろいと思えるものを読めばいい」(6行め)とあります。イ…「いくら読んでもさっぱりわからない本は、途中でやめても、さしつかえないのです」(32・33行め)とあります。ウ…「心に残ったところを、ノートに抜き書きしておくのもいいことです」(39・40行め)、「また、あなたが読んだ本の題名と、～」(41行め)とあります。

④ 出典は、花形みつる「徳治郎とボク」〈理論社〉。

問一 1…「胸騒ぎ」とは、悪い予感や心配事のために胸がどきどきすることです。2…「陽が落ちていくにしたがって蒼から黒に変わっていく裏山のシルエットがマントを広げた死神のように見えた。言葉だけで知っていた『死』というものをすぐそこに感じた。こわくてこわくて生きた心地がしなかった」(17・19行め)から、死を連想させる描写が多く見つけられますね。

問二 「息をのむ」とは、はっと驚いて一瞬息をとめることです。

問三 A…空らんの後に「自分がなにをしたかわかっていないようだった」(21・22行め)とあります。

B…空らんの前に「もっと早く帰るつもりだったんだけどな」(23行め)とあり、帰りが遅くなってしまったという自覚があり、それを少し悪いと思っていることがわかります。C…すぐ後に、「ボクも、『あたしたち』がついてくるのはちょっとイヤかも」(54・55行め)とあります。

問四 「お祖父ちゃんの、あの本気のリハビリは畑に行くためだったんだ」(15・16行め)とあります。お祖父ちゃんはずっと畑に行きたかったのです。

問五 お母さんの電話から聞こえたため息のことを表現したものです。——線③のすぐ後に「腹の底から出たような長いため息だった」(31・32行め)とあります。お母さんが不安から解放されて、心の底からほっとしている様子が読み取れます。

問六 「修羅場」とは、もともと戦争や闘争が行われる血なまぐさい場所を表した言葉で、演劇・講談などで、激しい戦いが演じられる場面のことを言います。直前に「お母さんが怒っているのがわかった」(35行め)とありますが、怒っているのはお祖父ちゃんに対してです。今日のお祖父ちゃんの勝手な行動のことで家族会議が行われることを予測し、ボクはため息をついているのです。

問七 結界とは仏道の修行などで妨げになるものを入ることを許さない区域のことです。お礼はそのお守りであり、それがはがれることで、結界はなくなってしまいます。今回は、結界やお礼にたとえて、お祖父ちゃんに対して(心の結界を作って)ずっとがまんしてきたものが、「父親を心配しての忠告なのに、ことごとくブチ切れるお祖父ちゃん」(44行め)のせいでこらえきれず、一気に外へ出てしまうようすを表しています。

問八 お祖父ちゃんと夜に駆けつけてきたその娘たちとの話し合いです。すぐ前に「お祖父ちゃんが他人の言うことを聞くわけがないこともお母さんたちはわかっていた」(50・51行め)とあります。